

## 私のすすめるこの1冊

榊原 禎宏(教育学科 教授)

### 『働かないアリに意義がある』

長谷川 英祐 (著)

三つの意味でこの本はおもしろい、と私は読みました。一つめは、アリという誰もが知っていて日常的に見る生き物なのに、その生態について(少なくとも私は)ほとんど知らない多くのことを、専門的な研究を咀嚼して紹介してくれている点です。

個体の上に階層をつくる、その中でも特殊な集団構成をもつ、真社会性生物と分類されるアリのコロニーにはメスしかないこと、また7割ほどのアリは休んでいるが、予測し難い変動環境のもとでは働かないアリに意味のあること、あるいは、野菜のハウス栽培にてミツバチを使ったところ、近距離に花の蜜が密集する環境ではハチが働きすぎてしまい、「過労死」と呼ぶべき現象が見られたこと、アリにも社会に寄生するフリーライダー(ただ乗り)がいて、社会の危機を招くものの局所的な絶滅と再生が繰り返されて、全体としてはバランスが取られていること、といった多くの知見が、素人にもわかりやすく述べられています。

二つめには、アリやハチの生態がヒトにも見られるところがありそうだと、読者が類推を試みられる点です。たとえば、働かないアリがいることで、将来的に起こりうる環境の変動に適応可能な余地を残しているという指摘から、現在の物差しだけで他者や物事を評価することの愚かさを知らされます。今の世は、計画に即して行動、点検・評価を経て次の行動へというPDCAサイクル論や目標管理論に傾

斜していますが、教育など将来のための活動であればなお、こうした発想に慎重であるべきと学べるでしょう。あるいは、同じ種のアリでも「反応閾値」(行動に向けた「腰の軽さ」)が異なるので、指示する上司や上下関係の不在に繋がっているということ、私は学校組織のあり方のヒントと読みました。さらに、群れで生活するアリが持つ強みと弱みの観察から、学校でよく強調される「集団としての一員」スローガンを再考しなければとも思いました。

そして三つめには、アリの研究を通じて垣間見られる学問的な誠実さの大切さです。同じアリでも種によって生態は決して一様ではなく、アリを統一的に説明しようとする矛盾が生じることが少なくないこと、アリの生態の理由を説明しようとする複数の仮説があり、まだ決着がつかないこと、観察しても実証できないこと、つまるところ、「説明できないことはどうしても説明できない」(p.185)と言うまでに、観察と考察を重ねるべきことを学べます。研究も人間による営みですから、「美しい理論」に惹かれることは十分に想定できます。注目されたい、わかったつもりになりたいとは素朴な欲求でもあるでしょう。「わかりやすい話」はとても魅力的だからこそ、語る側が安直にそちらに流れない、また聴く側もいたずらにそれを求めない、互いに我慢強さが必要と思わされます。皆さんにもぜひ、手にとってほしい本の一冊です。

京都教育大学  
それはかなう夢講座

おにぎり2個  
&お茶付き!  
先着30名

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

### 第7回のお知らせ

【日時】2017年7月5日(水)  
12:10~12:40  
【場所】附属図書館1階  
リフレッシュラウンジ  
【講師】川原田 茜(数学科 講師)  
【テーマ】カオスの話をしましょうか

#### 〈概要〉

「カオス」という言葉は日常会話でも使われています。混沌としていたり、混乱していたり、物事がめちゃくちゃになっている状況を指して用いられる言葉のようです。

ここで私がお話しするのは、数学における「カオス」です。カオス的な振る舞いは非常に複雑で、一見ランダムに見えますが、その背後には秩序があります。また秩序はあるけれども、それは繊細で、未来の振る舞いを予測することはできません。今日は不思議な特徴を持つカオスの一片について、お話ししたいと思います。

### 第6回を実施しました

5月24日(水)、附属図書館1階のリフレッシュラウンジにて「それはかなう夢講座」が実施されました。第6回は、大学院連合教職実践研究科の浅井和行教授による「1枚の写真から」をテーマに、海外で撮影してきた写真や報道写真を見ながら、その写真から垣間見える社会の背景について考えました。定員30名を越える参加があり、多くの学生や教職員で賑わいました。



(第6回の様子)

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト  
後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

## 平成28年度 利用統計

### 1. 入館人数

	学部生	院生	教員	職員	学外者	合計
総人数	60,498人	11,089人	2,747人	1,683人	4,569人	80,586人
H27年度	52,108人	9,439人	2,507人	1,525人	4,079人	69,658人

### 2. 貸出冊数・貸出人数

	学部生	院生	教員	職員	学外者	その他	合計
貸出冊数	14,068冊	7,010冊	1,486冊	853冊	1,740冊	193冊	25,350冊
貸出人数	9,318人	3,892人	830人	582人	910人	147人	15,679人
H27(冊数)	13,874冊	6,717冊	1,401冊	704冊	1,180冊	208冊	24,084冊

### 3. 文献複写 相互貸借

	文献複写				相互貸借	
	依頼		受付		依頼	受付
国内機関	653件	4,033枚	842件	4,792枚	89冊	164冊
海外機関	0件	0枚	16件	156枚	-	-
H27(国内)	410件	2,566枚	772件	5,107枚	76冊	206冊

### リクエストと投票で話題の本を読もう!

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています!

- ・学習研究目的のものは原則として購入します。
- ・学習研究以外の目的のものは、毎月10日までに受付した分を15日~月末に館内で投票し、票の多かった本を購入します。結果によっては購入できないこともあります。リクエストや投票にどんどん参加してください!

※7月の投票期間は

**7月18日(火)~7月31日(月)**です。

※図書館1階渡り廊下と北館2階研修セミナー室前に掲示します。

**リクエストは  
随時受付中です**

(リクエスト方法については、館内掲示をご覧ください。)

読みたい本に  
投票しよう!  
(1日1ポイントまで)



**7月もあります！  
学修相談カウンター**

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？  
どんどん利用してください！お気軽に！



【場所】北館 2階ラーニングcommons  
【時間】16:30～19:30の該当時間

※7月で一旦終了しますが、また10月から開始します！

**図書館講習会のお知らせ**

Tools 講座・・・レポートや卒論・修論に役立つツールを知っておこう！

【開催日時】

文献管理編：7月12日(水) 14:00～14:30

Word 編：7月12日(水) 14:40～15:10

概要：レポートや論文を書くのに便利なツールをご紹介します。今回は文献管理を行うソフトウェア Mendeley と、お馴染み文書作成ソフト Word の様々な機能を紹介します。

【集合場所】附属図書館カウンター

【申込方法】希望日時、所属、氏名を明記の上

library@kyokyo-u.ac.jp まで

(当日参加希望は、5分前までにカウンターへ！)

※詳細は、ホームページやポスターで！



職場体験実習生(桃中)による撮影

**中庭コンサートを実施しました**

6月29日(木)、附属図書館の中庭で、音楽科の山口博明准教授による器楽基礎演習の受講生によるリコーダーとトーンチャイムのコンサートが行われました。ドボルザークの『家路』やサウンドオブミュージックのテーマ、スタジオジブリの映画音楽など、よく知られた曲が優しい音色が響いていました。最後に鍵盤ハーモニカや打楽器による合奏も行われ、訪れた人の耳を和ませていました。

**夏季休業に伴う長期貸出について**

学部生：7月26日(水)～9月19日(火)

院生・教職員：7月12日(水)～9月5日(火)

【返却期限日】10月4日(水)

※卒業・修了予定者は9月11日(月)まで

**職場体験終了報告**

5月29日(火)から6月2日(金)にかけて、京都市立大淀中学校から職場体験実習の生徒を3名受け入れました。また、6月27日(火)から6月29日(木)にかけて、附属桃山中学校から2名受け入れました。カウンターでの貸出・返却業務の他、図書装備、配架作業など、様々な図書館業務について体験してもらいました。

また、8月中旬頃に附属特別支援学校から、職場体験実習の受入を行う予定ですので、みなさまご協力をお願いいたします。

(場所：児童書コーナー)

**えほんのもり  
7がっ**

今月の「えほんのよみきかせ」は、  
**7月24日(月) 15:00～**です。

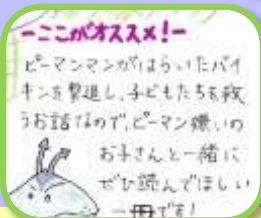
**『グリーンマントのピーマンマン』**

作：さくらともこ 絵：中村景児 出版社：岩崎書店

※絵本カードは幼児教育科の学生が作成し、児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

★あらすじ★

お肉もお魚も野菜も大好きだけど、みんなはひとつだけ嫌いなものがありました。それはピーマン。そんなピーマンがピーマンマンとなって、バイキンたちと戦い、みんなのことを守ってくれるのでした。



今月の絵本カード

**教育資料館 まなびの森ミュージアム**

今月の逸品

「訂正増補 日本重要水産動物図・植物図」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示をしていますので、ぜひミュージアムへ来てくださいね！



詳しくは・・・教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>



# 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **荻野 雄** (社会科学科 教授)

## 「クラカウアーとヴァールブルク学派（１）ークラカウアーとアビ・ヴァールブルクー」 「クラカウアーとヴァールブルク学派（２）ークラカウアーとエルヴィン・パノフスキーー」

荻野 雄

- (1) 京都教育大学紀要. 2017, No.130, pp.1-16
- (2) 京都教育大学紀要. 2017, No.130, pp.17-34

本稿は、ドイツ出身の文化哲学者で、ワイマール時代のドイツ映画論『カリガリからヒトラーへ』で知られるジークフリート・クラカウアーと、美術史家アビ・ヴァールブルクを源流とするヴァールブルク学派との知的な関わりを考察したものです。

アビ・ヴァールブルクは、一般には、現在でもよく使われる「神は細部に宿る」という言葉で知られています。しかし彼の根本問題は、近代世界における古代の存続でした。ここで古代とは、人間の原初的な、つまり不合理で破壊的な衝動を意味しています。ヴァールブルクによれば、それは近代文明によって克服されたように見えながらも、実際には生き残っていて、近代の精神的営為の随所に現われていました。例えば宗教改革家たちは、ヨーロッパの合理化の端緒とも言われていますが、実際には魔物や超自然的怪異の存在を信じており、そればかりか敵をそれらに見立てたイメージをパンフレットにしてばらまいて、民衆の原初的な恐怖と憎悪を煽り立てていたのです。ヴァールブルクは、第一次世界大戦時のプロパガンダを、こうした宗教改革家たちの扇動と重ね合わせて考えました。また彼にとってファシズムとは、正に古代（忘我的陶醉）の復活そのものでした。こうしたプロパガンダ理解、ファシズム理解はヴァールブルク学派の研究者たちに受け継がれましたが、クラカウアーも独自の思想遍歴の結果、それらに近い見方に達していました。それゆえクラカウアーは第二次世界大戦中、アメリカ政府の支援の下ヴァールブルク学派と共同でナチズムのプロパガンダ分析を行い、ナチズムに抗する実践的な知的共同戦線を形成したのでした。

本論文は、この共同戦線形成の経緯と成果について述べています。また、クラカウアーがヴァールブルク学派のパノフスキーと共有していた映画観の先駆的な意義も、指摘しています。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 130 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

### 開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2017年7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

7/5 館内整理日

2017年8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8/2-8/8 前期末試験

8/9-9/30 夏季休業

8/14-8/15 夏季一斉休業

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ (QRコード)

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.202(2017年7月号)

発行日:平成29年7月3日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先: [library@kyokyo-u.ac.jp](mailto:library@kyokyo-u.ac.jp)

